

令和6年度第2回白井市まち・ひと・しごと創生審議会

日時：令和6年10月8日（火）午後2時から

場所：白井市役所本庁舎3階会議室303・304

出席者：【委員】

高尾 公也会長、山田 壽一副会長、伊藤 治委員、阿部 健一委員、
駒村 武夫委員、中村 泰章委員、土肥 剛委員、河野 はるか委員、
神山 真季委員

【事務局】

企画政策課 村越課長、多納主査補、菅原主任主事、佐竹主事

欠席者：染谷委員

1 開会

2 議題

(1) 人口ビジョン（案）について

【会長】

皆さん、こんにちは。本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

さて、前回5月に、デジタル田園都市国家構想交付金の効果検証、それから企業版ふるさと納税の状況、総合戦略における指標の検証、次期総合戦略の策定方針について説明がありました。

今回の審議会では、主に次期まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンにおける将来人口推計に関する審議を行います。この将来人口推計は、白井市における地方創生はもちろんのこと、現在策定作業中の白井市第6次総合計画における人口部分に関わる内容でもあります。委員の皆様方におかれましては、忌憚のない御質問、御意見を伺いたと思いますので、よろしく願いいたします。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

それでは、次第に沿いまして議事を進行してまいります。まず、議題の1です。人口ビジョン（案）について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料1に沿って説明。

【会長】

それでは、今、人口ビジョンにつきまして、資料1を用いて事務局から説明を受けました。質問や確認したい事柄があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【委員】

ここの数字は、全部現状分析から、そして将来こうなるであろうという予測が書かれていると、そう理解しました。ここから何が見えてくるのかということや市の皆さんがどうお考えになっているのかということや皆さん知りたいところではないのかなど。ここから出てきた数字、現状分析から、我々が何か考えて、我々に何か求めているのでしょうか。

【事務局】

お答えいたします。今、委員さんの伺われている内容に則しているか自信がなくて大変恐縮なのですが、今のところ市のほうで、今後、子育て施策であったり、移住・定住施策というところを企画政策課もそうですし、庁内各部局で考えていくところではあるのですが、それに当たって、皆様に今、こういう現状分析で、こういった形で市は考えておりますというところを見ていただいて、そこに関して、それぞれ審議会の皆さんの持つ知見からして、その部分ってどういうことなのというところの御意見も頂きつつ、こちらのほうで頂いた意見を咀嚼しながら、またいろいろ検討させていただいて、次回の会議の中で、こういう形で人口ビジョンを取りまとめましたというところをお示しできればなというところで、今回、会議を開かせていただいているというような形です。

【委員】

本来は、ここにある数字を見て、市の職員も担当者として、将来こういう施策を打ち出したいと、ついては皆さんどうですかというふうに聞かれると、皆さん答えやすいけれども、現状を見て、どうお考えになりますか、何か質問はありますかと言われても、多分皆さん戸惑いがあるだろうと思います。

それと、この資料の中で書かれているところがあります。これは、総人口は令和2年、2020年がピークという総人口の推計というところがありますけれども、この中で「市街化調整区域における宅地開発や結婚子育て支援施策の強化等による人口流入・出生率の増加」と、これが唯一、方策なのかなど。

でも、本当にこの市街化調整区域に一般住宅を建てて、この街がさらに発展して若い人たちが入ってくるような街にできるのだろうか。こういうところがすごく重要だと思うのです。こういう市街化調整区域を一般住宅にして、何世帯入ってこられるの。多分、そこにはそんなに多くの人口を見込めないではないですか。だから、例えばこういうところに超高層住宅を建てるのだというようなこととか、そうすると固定資産税がたくさん入るではないですか、税収も上がるではないですか。その代わりに、社会インフラも増えていくかもしれない。

では、それ以外に、例えばここに今流行りのデータセンターを持って来るんだとか、あるいは高額な投資の伴ったような企業を誘致するのだとか、そういうことも考えていく。要は、税収がたくさん上がれば、豊かな街になれば、子どもの養育費とか学校の費用とか、そういうものが無償化できるよと言ったら、皆さん来るのではないですか。そういう、

まず豊かな市を想定して、皆さんが案を出して、魅力ある街にすれば人口は増えてくる。だから、ここに書いてある数字は、全部、現状を続けていくところなるということであって、そこで手を打てば変わるかもしれないですよ。流山のようにばあっと人が増えてくるということもあるわけですから、そういったことを踏まえてお考えいただいたらどうかなというふうに思います。とにかく、この市街化調整区域の利用については、皆さんの衆知を集めていただく。

それからもう一つは、この街全体を輝く魅力ある街にするためにはどうすればいいかというプランを仮想でもいいから描いて、そして、それを皆で実行していくと。もちろん、地権者の人は、俺らの土地だと、勝手にそんなプランを立てるなどと言われるかもしれない。だけれども、そういったプランをつくって、街の今までの在の方にも理解をいただいたり、新しく誘致をする方にも加わってもらったりして、輝く街をまず描くことが先ではないかと。私はそう思う。

【事務局】

私たちの書き方が分かりづらかった部分があるかと思うのですがけれども、市街化調整区域も全般的にというお話ではなくて、先ほど御説明させていただいたとおり、富士の低層も、調整区域のエリアの中でも既に開発が容認されている、容認されているという言い方が正しいかというところはあるのですがけれども、一部認められているエリア、富士の南園のエリアとか、そういうところがございますので、そういったところである程度、一定程度の面積があるところがこのぐらいあるなということで、一応、推移として見込んでいるところですよ。

あと、一応なのですがけれども、今回、前回よりも、かなり市としての施策を打った場合の効果を見込んだ推計に現状なっています。なので、このまま行けばこうなるというものではなくて、どちらかというところ、子育て施策も市で頑張ります、移住定住も市で頑張ります、その結果としての数値が、この黒い線だと思っていただけるとありがたいです。実際のところ、現状お示しできていないのですがけれども。

【委員】

そうかなと思って見てはいました。

【事務局】

正直、ベースで申し上げますと、現状値で推計値を開くと、社人研の推計よりもかなり低く人口はなるというような形になっておりまして、市長のほうもそんな数字ではいけないと。これからは、データセンターの誘致みたいなところの話も今、委員さんからおっしゃっていただいたようにあったりとか、そういったところで市のポテンシャルもあるから、そういったところも勘案しつつ、人を呼び込むために市として努力できるところは努力しなければいけないよねと。そういったところを見込んだ数字として、今後、言い方が正しいのか分からないのですがけれども、このまま推移したらこうなりますではなくて、市

として、こういう数値にしなくてはいけないよねというところを勘案しながら、そのためにはどういうことをしていかなくてはいけないよねというところも踏まえて推計をつくった形が、こういったものになっているというところでございます。

【委員】

努力した結果がこの数字ですよというところで理解しました。

それと、市街化調整区域は結構ありますよね。そういうものを調べ上げて、それを土地化するというか、有効利用する方策を、とにかく市が頑張って打っていただけると変わってくるかなと。

何遍も言いますけれども、白井の工業団地は今、税収が大体二、三億なのかな、市に納めている。これが、もっと整備すれば増える。そういった税収が増えるような施策を次々と考え出して、手を打っていくことが望ましいのではないかなと、私はそう思いますけれども。とにかく工業団地の中のインフラはひどいですよ。工業団地なのに大型車は通行できない。右左折禁止なんて看板が出てくる。何なんだ、これほど、私はいつもそう思っています。

以上です。

【会長】

委員さんがおっしゃるように、現状と将来推計が示されているわけですが、まず現状を見て、どういうふうにかこれを感じて、そうすると、どういうことをやっていかなければいけないかということで話が進んでいくと思うのです。委員さんがおっしゃっていることは当然そうなのですが、現状、私はこのデータが送られてきて、自分の街のことですから読みましたよ。附箋をつけましたよ。非常に将来大変です、この街。極めて深刻。全国の市町村が抱えている課題とほぼ同じなのだろうと思いますけれども、より深刻なのはニュータウンだということです。一気に高齢化していくのだということですよね。高齢化の比率は、比較しますと、28%ぐらいですから、全国平均では30%に近づいているわけです。まあまあですけれども、これから一気に高齢化していく。

それと、やはり一人暮らしが確実に増えてきているということですよね。さらに、高齢者の夫婦世帯がいて、どちらか一方が死ねば、一人暮らしになるのです。資料を見ていきますと、扶助費ですよ。社会保障費は当然上がっていくわけです。一方で税収は減っていつているのです。そうすると、調整金を取り崩しているのです。そうなってくると、人口は増えないで、そして高齢者が増えていって、社会保障費が上がっていくということになりますと、これは街としては借金を取り崩していかざるを得ない。そうすると、行き着く先はどうなるか、消滅ですよ。

特に増えない原因は、女性が少ないですよ。20代後半から30代の女性が少ないのです。そうすると、子供を産まないのです。産んでほしいけれども、そういう人たちがいなければ子供を産まないわけですから、そうしたら確実に少子高齢で、街は財政的にも破綻して

いくという。この資料を見たら、非常に危機的な状況にあることが分かります。

今日配られました29ページで、新しい推計のパターンですよね。赤い数字が社人研のパターン1の推計です。これは、中位推計を使っています。社人研は三つのパターンを想定しているのです。高齢推計、中位推計、低位推計を使うのです。低位推計は、これよりもっと低いですよね。それに合わせていきますと、恐らくこの街は、赤い数字よりもぐっと低くなるはずなのです。街は、先ほどおっしゃったように、それではいけないと、あまりにもそういう暗い話を市民に向けますとよろしくないというので、多分いろいろな開発が進んで、データセンターなども誘致して、少しは人口が増加していくというパターンを示されていると思うのですが、実際はもっと低いはずですよ。恐らく、街が推計しまして、低位推計に合わせていきますと、もっと低くなると思います。

というのは、大学で18歳人口がどうなるかということは大変なことでしょう。その場合に低位推計を使うのです。低位推計を使って、18歳人口がどう動いていくのかということを見ているのです。そうしますと、現状よりも、みんなが考えているよりもっと少ない数字が出てくるのです。だから、一つは、そういうパターンも示していくということが必要なのかなと思います。

だからどうするのだという話で、委員さんの話ではないけれども、市街化調整区域をどうするのだとか、あるいはもっと企業誘致をどうするのだとかいうようなことが重要なのです。

最初この会議が始まる前に雑談していたのですけれども、工業団地に勤めている人は、白井市以外から来る人が多い。市内の人が勤め先として工業団地を選んでいるのではないのです。だから、この辺も一つ、考えていかなければいけないかなと思います。この街の若い人は、特に20代の方は他の地域に出ていっているのです。白井市に他の地域から入ってくるのではなくて、出ていっているのです。そうなってくると、非常に人口問題によって深刻な課題が発生するのです。

街の人たちは、そういうことに関して、この資料が発表されたら認識するでしょうけれども、あまりこの町の人口減少や少子高齢化についての認識が乏しいと思います。もし仮に認識していたら、何か行動を起こそうという声が出てくると思います。だけれども、今のところそういう声あまり聞こえてこないですね。高齢者の茶話会をやるとか、そういうことも重要なだけれども、自分たちの住んでいる街がどうなっていくのかということが心配なはずなのです。だから、現状の課題を認識するということが必要なのかなと思います。

皆様の意見を聞きたいのですが、どうですか。

【委員】

この報告書は、多分、白井市第3次まち・ひと・しごと創生総合戦略を出すためのものだと思うのですが、これを出して市民に安心感を与えるための報告書として解釈するなら

ば、楽観論的な部分に過ぎると思うのです。

というのは、今、白井市第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略第3版を見ているのですが、この中の人口の将来展望に関して、合計特殊出生率の上昇の部分だけを見た時、第3版の場合には、合計特殊出生率を令和22年に1.5にまで上昇させることを目指していたのだが、今回は5年早めて、令和17年に1.5に上昇させることを目指すとありますが、果たして現状分析ではどんどん人口が減っていて人がなかなか集まらないという中において、すごく楽観論過ぎるような気はするのです。

ほかの箇所にしても、送ってもらった55ページ以降のところの年少人口にしろ、生産年齢人口にしろ、いずれも年少人口も増えるとか、生産年齢人口も増えますという大変バラ色なのが描かれているのですが、そのためには、どのような施策をしてこのようになるという、そのところありません。ただ言ったとしても、そうかなということで、反対に不信感が出てしまうような気がするのです、そのところを委員の方々にも、このような施策を実際していましたという具体的なものがあり、こういうものになりますよと言われるならば、では頑張りましょうということになると思うのですが、そのところがなくてバラ色なものだけ見せられても、いいですねということしか言えなくなってしまいますので、その辺は市としてどうなのか。

あと、先ほど会長も言われたように、市で働いている人たちが市外から来ていると。では、その人たちに住んでもらってやれば街はもっと活性化するでしょうし、あと、ニュータウン等ができて新しい家はできるのだけれども、今、いわゆる空き家問題も結構多くなっているのです、その空き家問題をもっと活性化することによって人を集めるということも考えられる。その具体的なものを、市としては、二、三例を挙げてもらえればと思うのですが、お願いしたいと思います。

これを見ると大変すばらしいとは思いますが、ただ、実際どうなのかというのが出てきてしまうので。

【事務局】

実際のところ、この推計をつくるに当たって、積み上げという形よりは、先ほど申し上げました市長の今後の考え方として、総合計画の策定の段階でも方針として示しているところではあるのですが、若い世代をいかに呼び込むか。若い世代の方々がいかに安心して子育てをしていただくか、その環境を整えるか。その環境を整えた結果として、希望出生数である1.8に合計特殊出生率が近づく、ないしイコールになる場合に、こういった形の推移をたどるよというところが今の推計という形になっておりまして、その目標人口を達成するために、総合計画の中でこういう事業をやってきています。それは、もちろん今、皆さんに御審議いただいているまち・ひと・しごと創生総合戦略のほうにもはね返ってくるものになるということで、正直なところ、まだ総合計画も構想の段階ですので、実際、具体的な事業として、こういうことをやりますというところはなかなかお示しできなくて大

変申し訳ないところではあります。

具体的になるかは分からないのですが、1年先に改定がある計画として、白井市のこどもプランというものがございます。それに関しては、子育てであったり保育であったり、そういうものを包含するような、若い世代が割と対象になるような計画があるのですけれども、そういった中で、結婚支援のところ、結婚支援金みたいな制度を新たに創設しようという動きがあったりということもございまして、そういったところを拡充することで若い世代を白井市に呼び込むでしたり、今、既に住まわれている方に関しても、結婚をためらっている方の後押しになるみたいなところを支援していくことで、流出を避けるであったり、実際のところは自然減をいかに減らすかというところにはなってくると思うのですが、そういったところを手当てしていくことによって、少しでも人口減を抑制しようという取組を基本計画レベルでもそうですし、総合計画のレベルでも、今、実際、庁内のいろいろな検討しているところがございます。

実際のところ、今回、人口推計の頭出しの部分を皆様にお諮りしているところなのですが、次回の審議会のときには、この人口ビジョンの全体で言うところの本当の案という形で皆様にお示しする段階では、ある程度、総合計画のほうも構想の段階から基本計画の段階に検討段階が移っていく中で、こういった取組を市としても考えておりますというところを踏まえて、実際の人口ビジョンと照らし合わせていきながら、こういった取組をすることで、人口をこういう形で減少を抑制していきますみたいなところのお話をさせていただくことができるかなと考えております。あまり答えになっていなくて大変申し訳ないのですが、現状としては、そういった形になっています。

【委員】

期待しています。

【会長】

ほかに。ご自由に発言していただいて結構ですので、どうぞ。

【委員】

私は普通の一般市民なので、学もなければ普通の意見かもしれないのですが、多分、出生率を1.8%に上げたいから、今回のこれをしているというのはすごく分かるのです。

私は、子どもを産んでからここに越してきて、主人が白井市出身で、多分、白井市の方が思い描く、白井市出身の人が戻ってきて、20代で私は戻ってきたのですが、主人と戻ってきて、子どもを2人産んで、子どもを通わせて、主人も働いてという状況で、多分、理想的な形だと思います。白井に住んで思ったのは、子どもを育てる街かなという形で、若者が遊んだり、学ぶ街ではないかなと思っているので、そう考えると、子どもを産んで育てる街というイメージを私はここに住んで持っているのです。

ただ、私は西白井で子どもを産んだのですが、現状、白井は産婦人科が0軒なのです。多分、皆さん御存知だと思うのですが、印西は産科が4軒あるのです。流山

は7軒もあるのです。それも全部、駅の近くで。鎌ヶ谷も産科は3軒あって、考えると、産んでほしいのはすごく分かるのですけれども、どこで産めというのかなというのが正直ありまして。私は普通に自然妊娠して産んだのですけれども、私は今37なのですが、37になると、周りに不妊治療している人もすごく多くて、実際、不妊治療を白井でどこでできるんだといったら、できるところがないのです。結局、印西とか流山とか船橋とか、ほかのところに行って治療して、わざわざそれで白井に戻って産んで、もう一人産もう、3人産もうと考えるかという、ちょっと難しい気が私はしているのです。

もちろん、流山とかも、ここ10年で人数が4.2万人ぐらい増えたと聞いて、すごいなと思うのですけれども、実際流山に住んでいる人からすると、小学校のクラスが今7クラスとか9クラスあって、学校を変更させられて、兄弟間で学校が違ったりとかデメリットもすごく多くて、白井はその点で、印西の7クラスとか9クラスと違って、南山だったら1クラスですけれども、そういうことを考えると、もちろんデメリットもあるし、メリットもある。私からすると、流山とか印西に住みたいかという、学区も兄弟で変わるかもしれないとか、7クラス、9クラスで、学力も先生がしっかり目が行き届かないところに住むのかという、それだったら白井のほうがいいのではないかと思うのです。

ただ、現状の新入生が入ってきて、1クラスのクラスが、それがまたいいのか、プラスなのかという、またちょっと微妙なところではあるのですけれども。

私の中で、白井の方々がこのビジョンをつくるに当たって、私みたいに産んでから白井に入れたいのか、産む前、ゼロの段階から白井に入れたいのかによって、少しビジョンが変わってくると思うのです。1人産んで入ってきて、もう1人産んで出生数を2に上げるのか、ゼロの状態から入って、もしかしたら子供を産まないかもしれないけれども、しっかり働いて税収を入れてくれるのか。それによって少し違うかなと思っていて。今、事務局の方々は、資料に関して、どちらを想定してビジョンを思い描いているのか。若者を放さないというのもあるのですけれども、そもそも産んでから若者を入れるのか、産む前から取り込んで増やしていくのか、どちらで私はこれを見たらいいのかなというので、御質問します。

【会長】

では、事務局のほうから。

【事務局】

まず基本的に、今、委員さんがおっしゃっていたことというのが、まさに白井市を表していることなのです。もともと白井市というのは、ベッドタウンという形でニュータウンが造成されて、住む場所というのが基本的にあるはずなのです。なので、若者の居場所がないというか、そういうことがリアルに今、起こっているところなのです。なので、会長がおっしゃったとおり、若い人が育ったら一回出ていく、そういう街なのです。だから、それでいいかというわけではないのですけれども、基本的に白井で育ててくれた方が一旦

出ても、また戻ってこられる街というのが一番の在る姿だと思うのです。

ただ、行ってしまっただけで必ず戻ってくる約束の下ではないので、そのために人口を見る上での施策の一つとして、子供の頃に白井市で育ったことが、いい体験であるようにということも目指すところではあると思うのです。自分たちが幼少期に育った環境が、大人になって、よかったねと、やはり白井で子育てしたいねという街になることが、自分の中ではとてもいい方向性というか、ベストまでは言い切れませんが、そういう考えであると思う。それを今後のまち・ひと・しごとでも、そういう施策を皆さんに見つけてもらうというか、判断基準にしてもらうことがあるでしょうし、総合計画という別の計画でも、そういうところは目指すべきところの一つだとは思いますが。もちろん、産み、ずっと育ててほしいというのはあるのですけれども、視点としては、一回出てもまた帰ってこられる、帰ってきたいと思う街というのを目指していくことになるのかなと思います。

【会長】

ほかにありますか。

【委員】

私も有識者ではないので、本当に一般的な意見というか、質問になると思うのですが、先ほど会長のおっしゃられた総人口の推計のグラフに関してですけれども、例えば低位推計を使っていたら、それを提示した上で、なので、こういう施策をすると、こういう推計になりますよという数値があるととても分かりやすいのかなと思いました。

あと、33ページの自然増減・社会増減の将来推移についてなのですが、国として、日本全体で自然減というのが今、社会問題になっているかと思うのですが、その中で社会増を行っていく、白井が独自に社会増を増やしていくという施策に関して、ほかの国との比較があると、国全体ではこうである、だけど白井としてはこうであるというのが分かりやすいなと思いました。

以上です。

【事務局】

ありがとうございます。最終的な人口ビジョンであったり、まち・ひと・しごとの総合戦略の中で、そういった形でお示しできるかは何とも言い難いのですが、皆さんにまた御審議いただく際には、そういった補助資料を御用意させていただきながら、先ほど会長におっしゃっていただいた社人研の高位、中位、低位というところもお示しさせていただきつつ、あとは、このパターン2をつくるに当たって、市のほうでも、このままの現状値、合計特殊出生率は直近だと1.17なのですが、1.17で推移したら、こうなりますみたいなところも一応つくっている部分もありますので、そういったところも皆さんに参考資料としてお示しさせていただきながら、次の審議会の中で人口ビジョンの推計だけではなくて、その他もろもろ込みの人口ビジョンであったり、その人口ビジョンをお示しする中で、今、総合計画と一緒に連動してやる中で、こういった事業を考えていますとい

うことをお示しするところで、また改めてお示しできればと考えております。

【会長】

それに関連しまして、希望出生率が1.8なんていうことは、夢のような話なのだと
いうわけです。そんなことがあり得ないです。1.5でもあり得ないのです。だから、そ
ういう数字に惑わされてはいけないといえますか、逆に言うと、そんなものに合
わせていくこと自体に問題があるのではないかと思います。現状ははっきりとつか
んで、なおかつこう
いう施策を打てば、白井市ではこういう施策を具体的に用意しておりますと。そ
うなると子どもは増えますよ、人口が増えますよというような話をしていけない
と。あまりにも現状と乖離してしまうと、何のための計画なのだとということ
になってしまいます。総合計画を立てる上においてもそのようになってしまいま
すので、その点は注意したほうが良いと思います。総合計画のほうでも、き
っちり現状認識をしろということをお伝えいただきたいというふうに思いま
す。そうしないと、こちらで推計して、総合計画のほうでまた別の推計をし
て計画を立てるといことはとんでもないことですから、一致させてやってい
くことが必要になってくるのです。

【事務局】

一応、今回のこの推計ですけれども、総合計画のほうでも使う人口推計を使
っている。まだ、人口推計報告用として何も出ていないものではないのですけ
れども、今後実施する総合計画審議会の中でももんでいただくものと同じ
数字というところで御認識いただくと幸いです。

【会長】

だから、総合計画のほうでも考えなければいけないということです。現状
は認識すると。そこからもろもろが考えられていくわけで、現状を無視
したら駄目だと思いますよね。ほかに御意見がありましたら、自由に。

【委員】

私もここ白井で働いて、ちょうど1年9か月たった中での印象とかを含
めてお話しさせていただければと思うのですけれども、白井市を見てい
くと、人口が少しずつ微減しているというか、今の実態だと思うのです
けれども。その中で、人が住むところというのが西白井の周りとか、あ
とは白井両駅の周り、あとは千葉銀行白井支店がある富士と桜台とい
うところが主な分譲地というか、人が住んでいるところが多いところか
なと思います。

全体で最近、分析することがあって、千葉銀行の白井支店の住宅ロー
ンの残高というのが、ずっと実は減り続けています。いろいろ分析した
ところで考えると、この3年間、分譲地というのがほぼないというの
と、あとはマンションが1棟も出来上がっていないというのが現実問
題であって、ニュータウンや鎌ヶ谷と比べると、住宅ローンが伸びない
というのは、家が建っていないというのが一番の要因。かつ、中古の
住宅もほぼほぼ動いていない。本当に町場の不動産屋さんが1棟ずつ
売って、中古で売っていくという案件がすご

く少ないというのが分析した中での結果でした。

さっき委員から話があった工業団地にお勤めの方は他市にいる方が多いとか、あとは、若い方で出た方が戻ってこないという話の中で、多分、私が思うに、白井市には戻ってくる家がない、住むところがなく、しょうがないので、例えば印西に住むだとか、鎌ヶ谷に住むと、親御さんたちは白井にいるのだけれどもということ、住む家がないというところが問題なのかなと思っています。

直近、先ほど事務局から話があったように、富士に多分50区画から100区画、100区画まではいかないのかもしれないのですけれども、造成している業者がいて、その後も、多分二、三十区画ぐらいで造成される業者というのも把握はしているので、富士は何とか出来上がってくるとは思うのですけれども、ほかのところは10区画以内の、いわゆるちょっとした分譲地がちゃんとできてというぐらいなので、なかなかそこに住みたいという方ができてこないと思うのです。

常々私が思うのは、調整区域で分譲地をとという話が、多分、市のほうで選定した区域が15か所ぐらいあるのは把握しているのですけれども、駅から近いところを、私の個人的な考えとしては分譲地とすべきであって、ただ、いろいろなところに聞くと、分譲地にする予定はないと。データセンターをつくったり、あとは物流倉庫だとか、道の駅みたいな商業施設をつくるのだという話があるのですけれども、私個人としては、白井市というのは住みやすい街なので、商業地は印西とかに任せておいて、住みやすい街ということで分譲地をどんどんつくれば、人は戻ってくる。魅力ある分譲地をぜひぜひつくってほしいなと感じました。

以上です。

【会長】

それでは、その辺のところはどうですか。

【事務局】

委員、ありがとうございます。住宅供給がそもそもないというところは、事務局のほうでも、今までの社会増というところは、住宅の供給ありきというところがございましたので、近年、それでも増えているとは言いつつ、社会増で自然減を補えなくなっている要因が、住宅の供給が絞られているというところはあるかなというのは常々感じているところでございます。

実際、市街化調整のスプロール化を避けるために条例を制定して以降、調区の開発、一定の要件を満たしているところ、先ほど来お話が出ている富士を除いて、基本的にはできなくなっているところがございまして、新規の住宅の供給はあまりない。市街化区域についても、あまり市街化区域内の残地がないというところで、住宅の供給が絞られていて、社会増につながらないというところはありまして、そのあたりをどうしていくかということが本市の課題かなとは感じております。

その一方で、さっきから調整の話をしている一方で、そんなことを言うのかと言われてしまうのかもしれないのですけれども、既存で、低層で塗られている富士を除いた調整区域に関して、あまりそこを、あくまでも市街化調整ですので、宅地として許容するのはいかがなものかというところもございますし、あとは、先ほど委員がおっしゃられた15の地区というところが、恐らく今の未来創造戦略室のほうで設定している産業用地の候補地のお話かなとは思いますが、産業用地として候補地を検討しているということもございますし、あと、実情として、市街化に編入するというところ、住居系というところ、なかなか要件的に厳しいというところもございまして、そのあたり、どうやって住居系を市として確保していくのかというのは悩ましいということで、確認しているところでございます。

そういった中で、例えば駅前の再整備に当たっては、商業機能もそうですし、エリア内に住居機能、もちろん駅前なので、それこそ集合住宅、マンションみたいなものがあれば一定程度の需要はあるだろうと。かつ、そこにマンションで人が貼りついてもらえれば、商業機能についても一定の効果が見込めるだろうみたいなのところもありますので、そういったところはビジョン等勘案しながらということもございます。住居系の話が出て、先ほど委員からお話がありましたけれども、駅前に保育機能とか、保育機能だけではなくて産科医院があるというところも、もしかしたら子育て世代を呼び込むためには、そういった機能が必要だということも含めて、駅前については考えていかなければいけないかと考えております。

また、あと空き家の話が会長から出ていたと思うのですが、現状、白井市内は、あまり空き家率自体が高くないというところはございますけれども、ニュータウンということで、殊、分譲で入られているマンションが多いですとか、戸建てについてもニュータウンと同時期に造成されているものも多くございますので、そういったところが向こう10年したときにどうなるかということがございます。そういったところを第6次の事業であったり、まち・ひと・しごとの創生でもそうですけれども、いかに空き家を流動化させるかですとか、空き家になりそうな住宅をお持ちの方にどう考えていただくのか、意識醸成をどうしていくのかみたいなのところは、市として取り組まなくてはならないなと考えておりますので、そのあたりで、こういう取組をしなくてはならないということも含めて、次期会議のときにはお示しできたらと考えております。

以上です。

【会長】

それでは、ほかに。

【委員】

少子化問題について、皆さん、真剣に考えて対応していると思うのですが、この問題は、都市計画とすごく密接に関係していると思うのです。皆さんは、都市計画の方々

とどんな連携をなさっているのでしょうか。つまり、縦割になっていると、その部門だけでその答えは出しにくいと。しかし、横でつないで考えてみれば、いろいろな方策があるのではないかなど。皆さんの立場から、こうしたらいいのではないかという提案もできるのではないか。その辺のところは、現状どうなっているのですか。

【事務局】

お答えさせていただきます。まず総合計画というものと併せて、都市マスタープラン、これは都市計画、まちづくりの面での計画になりますが、そちらと併せて同時進行でやっていて、常に都市計画課とは連携を取りながらやってはいます。先ほどの調整区域の開発の話であるとか、駅前再開発、それから、老朽化した千葉ニュータウンの全般的な、今後まちづくりをどうするかというところを話していて、住むところがなければ人が増えない。それはもう重々分かっているところで、どうやってそこを確保するのかということと、調整区域というのは開発が予定された地域であるので、むやみに開発できるわけではないので、それをどうやってうまく制限というか、調整しながら、住宅系にできるところ、それから守るべきところというのを整理していくかということをお話しながら、最終的には都市マスタープランというところで、どういう位置づけにこのエリアをしていくのかというのを整理していくということになるので、その協議は、常々行ってはいるところがあります。

【委員】

都市計画をやるについて、税金が当然問題になります。お金がないのだということがよく言われるのですけれども、その税金の見積りというのを、この街は現在の税金が幾らで、これだけの税金が上がれば、これだけの施策は打てるというような、税金と施策の考えについて、何か描き出すと、では、ここに向かってやろうと、こういう施策を打っていこうということになってくる。積極的な政策が打ち出せるのではないかなど。漫然とどうしたらいいのだと言ったって、それではドリームプランばかりになってしまうので、例えば、何遍も言いますがけれども、工業団地周辺のインフラを整備すると、これぐらいの税金になるぞと、だからやろうと、地元の方にも協力していただこうと。そうやって具体的に見えてくると、元気が出るのではないかと思うのですけれども。

以上です。

【事務局】

おっしゃるとおりですね。まず、今既存の工業団地がございますので、そちらのインフラがまず現状としてどうなっていて、どうあるべきかというところを整理していく必要がある。

それと、委員のほうから、調整区域での開発を進めて、データセンターとかの呼び込みという話もありましたけれども、それについても、具体的に今、進もうとしているところもございますので、そちらについては、まだ今、ここで話しすることはないのですけれ

ども、この先10年のうちに何かしらの成果を上げられるものがあるのではないかと
ころ。10年という長い期間で見てもらうしかないので、その間、どこかでは少しずつ成果
というのは出ていくのかなというところは見えているというか、そういう状況ではありま
す。

【会長】

ほかに、よろしいですか。

【委員】

意見というか、今回これに参加するに当たって、私は白井のことをあまり知らなかつた
ので、いろいろと調べたり、何なりしました。来る前の印象は、知っていたのは白井の工
業団地さん、こちらは、うちの業務の関係でいろいろと関連がありましたので、存じてい
ました。あとは、個人的に言えば梨なのかなと思っていたのですが。

まず、その2点から言うと、白井の工業団地さんについては、私が最初に知った25年前
とほとんど変わっていないのかなという部分があります。あと、梨については、こちらの
資料にもありますとおり、梨農家さんが半分ぐらい減っている。あるいは、いろいろと周
りの人からも言われたのが、梨の直売所というのがなくて、道路際で売っているのがほと
んどじゃないというような話を聞いてきました。

そういう印象が強かったのと、あと、今回この資料を見て、資料で大分いいところもあ
るのかなと思ったのが、先ほども子育て関係のお話をされていたと思うのですけれども、
資料の15、16辺りの下のところに書いてあるとおり、いわゆる子供も0～4歳の転入が増
えていると。ですから、子育てをしたい人たちは、こちらに越してきているのかなと。逆
に言えば、子育てが終わってしまうと、生活しづらいから出ていってしまうのかな、ある
いは、若い人たちは出ていってしまうのかなというところがあるので、何かしら、住民の
方が生活しやすい状況というか環境をつくるのに、あまり幅広でやるのではなくて、市と
しては、こういった形を推して行ってというものをビジョンとして持たれたほうがいいのか
かなと。例えば、流山さんみたいに子育てができるような状況を強く推したというような、
何かビジョン的なもの、核的なものを一つでも二つでも用意して、幅広でやるのではなく
て、何か絞ったほうがいいのかかなと。

あと、こういった資料を作るに当たっても、確かに数値を今回、大分改善されて作られ
たと思うのですけれども、それを改善するに当たって、こういった施策を盛り込むのです
よと、こういったものがあるから、こういった形で数字がある程度確保されるのですよと
いう形で表記できると、非常に分かりやすいのかなと思います。

以上です。

【会長】

ほかに御意見がありましたら、お願いしたいと思います。

【委員】

先ほどから、調整区域等ですと、農地のほうがいろいろとメリットにもなり、デメリットのほうが多いのかと思われるのですが、今までのバランスを取ってきた高齢者の方たちが、今、お亡くなりになったり、世代交代なりをして、多角的にやられている人、または専門的に進んでいく人、そういう二極化になっていると思います。私は梨ではないので、はっきり梨農家さんのことは分かりませんが、確実に親御さん世代が亡くなられて、次世代になっている。そういうところは数えるほどしかいないと思います。でも、その方たちは、すごくやる気があって、いい品物を作っていると思います。

調整区域は、調整と言いつつは駄目ということですから、これが一番のネックだと思います。ここら辺を、言えば上のほうですね、県と調整するのが大変だと思いますけれども、市の意向とかをまとめて、ここは開発に使えるようにする。先ほども本当に何度も委員が申されていますが、工業団地の周りで住宅地があれば、それは労働者の確保にもなると思いますし、そちらに子供をつくった親子がいて、今、第二小学校とか、私の出身校である第一小学校も全学年1クラスで、中学校も多分1クラスずつになるのではないかと思います。私は55年ここに住んでいるので、増えたときも知っていますし、当然、今の停滞しているのも知っています。私も親として、子供がもう2人とも外に出ています。これが現状です。学ぶところがそれこそない、それと働くところがない、遊ぶところがない。これで、帰ってくるというのを基本で考えられるのが一番いいと思うのですけれども、一番は、こうやって確たるものがないと、こういう資料では人口が減っていくのだなとか思えないです。当然、市のほうも。

白井市は意外と地盤もいいし、熊とかも出ないし、水にも基本的には強いところが多いので、そういうところの優位性とかも話せばいいと思いますし、一番あれなのは、今、印西市とか流山市ががんがん行っているの、それに追従しようとしなくていいと思います。白井市はもうそんなレベルではないと思いますので、身の丈に合ったではないですけれども、それでやるしか今のところはないと思います。

ただ、環境整備のほうは行っていただいて、ぜひともいい方向に、白井市が好きなので、それを大事にしていきたいと思いますので、事務局のほうも調整が大変だと思いますが、できる限り早く、10年とか言わないで、それが9年でもいいし8年でもいいし、少しでも早くいい方向というか、明るい方向に行くようになってくれたらありがたいと思います。

以上です。ありがとうございます。

【会長】

ほかに御意見は。

【委員】

銚子支店に勤務していました。3か月前に白井支店に勤務になりまして、その前まで銚子支店に勤務していました。銚子というのは、白井市よりももっとも悲慘な状況です。消滅都市になると新聞紙上でも出ていた感じで、何かなと思うと、やはりインフラなので

す。道路がない、どん突きなので大きな鉄道を引けない、特急も来ない。東京から同じ時間で銚子に来るのであれば、名古屋まで行けてしまう。人も集まらない。インバウンドに取り組もうと頑張ったのですけれども、結局、人も来なかった。魚も上がらなくなってきて、かなり厳しい状況。それに比べると、白井はすごくポテンシャルがあるというか、東京にも近いですし、隣の印西と鎌ヶ谷を見ると、それなりに発展というか勢いはあるのかなという中で、何で白井だけなのかなと思うと、委員がおっしゃっていた住宅。調整区域をどうにもできない現状があるから、そこに何か甘えているのかなと私は思ってしまった、東京までも通える距離なので、働く場所がなくても働きに行く場所は確保すれば人は増えるのかなと。非常にもったいないというか、まだまだ何かやり方次第で、流山や印西に追随する必要はないという話も出ていましたが、私も同じで、何か一つ特徴を持ったものを白井市が持ち出して、それに向かって、いろいろなところに手をつけるのではなくて、こういう街をつくるのだということを宣言しながら、それに向かっていけば、おのずと答えが出てくるのかなと私は思います。

私も成田に住んでいて、東京に遊びに行くのは好きなのですけれども、こちらにつなぐほうが全然楽ですものね。東京に遊びに行くのは、皆さん、若い人はそういうところもあると思うし、もともとベッドタウンだったということであれば、まだまだ。あとは道路関係で、外環につながるという話も出ていますから、その辺をもっと早いピッチで進めていけば、間違いなくそんな暗い話にならないような市ではないかと思っています。まとまらない話ですが。

【会長】

ほかに御意見があったら、どうぞ。よろしいですか。

今、大体、現状に対する意見が出ましたけれども、先ほど税収を増やしていくためには工業団地を発展させるとか、あるいはデータセンターを誘致するというようなことで、多分そういうことも必要なのだろうと思いますけれども、基本的には、それだけでは人口が増えないわけです。税収が増えても、人口が減って行って消滅してしまうということは当然あり得るわけだから、したがって、住宅の開発といいますか、そういうことがやはり重要なのだろうと思います。

北総線は、かなり利便性がよくなりましたよね。都内から帰ってきましても、特急とか快速とかできましたよね。ああいうものがもっとできてくると、都内までの通勤や通学がより便利になると思いますので、住宅開発を重視すべきではないかと思います。都内はとにかく住宅が高いわけですから、白井などは緑豊かで、そういうキャッチフレーズで売っているわけだから、住宅開発ではないかと思いますよね。そうやって人口を増やしていくという。そうすると、若い人たちが入ってくれば子供は当然生まれるわけだし、自然と増えていくと。そんな1.8とか言わなければ行くと思うのです。

だから、二通り考えていく必要がある。何よりも税収を増やすこと。そして住宅開発を

やって人口を呼び込むことが必要なのかなと。やはり人口を他の地域に出してはいけません。他の地域からこの町に通ってもら。また都内まで通ってもらってもいいから、とにかくここに住んでもらいたい。そういう街にしていく必要があると思うのです。

【委員】

何でそんなに住宅を整備できないのかなと、私は逆にすごく疑問に思っています。何かすごくハードルが高いのですか。調整区域を宅地にしていくというのは。こんなに農家さんも困っていて、梨農家さんも困っていて、誰も買ってくれないと言って。それがすごく疑問なのです。県が許可を下ろすのですか、そこは。何でだろう。こちらに来て、すごく疑問に思いました。こんなにいっぱい土地があって、みんな困っているのにみたいなの。

【委員】

市の方は分かっているのではないですか。2万坪という区画で計画を立てると再開発できると。市街化調整区域も含めて。違いましたか。2万坪。何かあるのですよね。

【事務局】

基本的なお話にはなってしまうのですが、先ほどから、市街化区域、市街化調整区域というお話が出ているところで、市街化調整区域を市街化に編入して、住居系のために市街化編入するみたいなのところに関しては、原則、千葉県は、区域を変えることの変更を認めていないというのが正直ございます。県全体として増えている事例はもちろん、国勢調査で言うと、前回よりも確かに千葉県は増えているはずなのですがけれども、全県的に見たときに、全体のエリアとして増えているわけではなく、一部のエリアに集中して増えているというところが恐らく千葉県としてはあるのだと思ってはいるのですがけれども、そういったところの中で、これから人口減少の社会の中で、何で市街化に住居系で編入するのかというところの立てつけがあるようです。

あくまでも市街化区域の中で住宅をつくるのが大前提という中で、先ほど、空き家の話もありましたけれども、空き家があるでしょう、空き地もあるでしょう、まず、そこを埋めていくのが先でしょうと。調整区域を開発したときに、調整区域のほうが当然開発したのが後からになるので、そこがどんどん熟成していったときに市街化の街が死んでいくのが見えてきてしまうので、県は積極的に市街化の開発は進められないというか、なかなか難しいと、まともに聞けばそうやって言われてしまうのです。なので、先ほど委員のほうから、都市計と話はどうなのかといったところで、都市マスタープランをつくる上でも、県と協議していく中で、何でそこを市街化区域の再開発ではないけれども、そういうことをしないで調整に家をどんどん建てることを考えるのですかというような、そういう議論があるというのが現状なのです。

ただ、皆さんおっしゃるとおり、住むところがなければ人は来ないのです。なので、その辺の整理をどうやって早くして見せていくかというのが、すごく大事なところなのかなとは思っています。

あと、駅前再開発ということも、大きな一つのポイントだと思います。

【委員】

県は、市からの打診というか要請にすごく熱意があって、プランもしっかりしているという場合には、変更をかけてくれるのではないですか。許可になるのではないですか。流山は、あれを見ていて、どう見たって、かつて市街化調整区域だったよねと。それがあんなに都市化になった。どうしてか。なぜ彼らができて白井はできないのだと。単純な疑問。

【事務局】

流山に聞いたわけではないので、ここは推測でしかありませんけれども、TXが上がってきたときの開発するときは、まさにおっしゃるとおり山を切り開いてできたところなので、当然ここら辺と変わらないのです。なのですけれども、あそこは駅をつけることによって、都市計画区域の見直しをしているところがあるのです。なので、駅前を山から、調整区域から市街化にして、住居区域にしたいという流れはあると思うのです。それを今、白井市でやろうとすると、既に白井市の中では、ある程度街は成熟していて、エリアも決まっている中で、先ほどありましたけれども、これから人口は減っていく、日本全国で減っていくという話をしていた中で、何で白井だけそうやって増えていくという、その理屈をつくらなければいけないというのがあると思うのです。その中で、どこまでというのか、例えば成田空港の話も今、再拡張をしているという話もありますけれども、そこで認めているのは、成田空港の周辺9市町は、大分制限を緩くしているところはあるのです。そのエリアに、そこでも市としては、そのの仲間に入れてくれというような要望をしていたのですが、まだだと。まだお前たちは、その出番ではないというところもあって、結局そこにも加えられていかない。

【委員】

努力が足りない。

【事務局】

少し別のラインのお話にはなるのですが、つい近々で、市役所裏の法目上長殿地区の事業者の公募が始まったということがあるのですが、あれの協議もなかなか。お隣の印西市さんで、ちょっと前まではすぐに認められていたものが、いや、農地をいじめるのはまかりならんといったところで、結局、市としても、別に農地をいじめたいわけではございませんと。農家さんにも一緒に連携していただきながら、営農するエリアと事業化するエリアを分けながら、地権者さんにもメリットがある、事業者さんにもメリットがあるような形で、さらに、それが税収にはね返って、市民にもメリットがあるような形でやっていきたいのですという話になっても、なかなか難しいみたいなところがありました。最終的に何とかなったのですけれども、それが次へ次へ行ったときに、また今度は違う要件がつけられてみたいなところがあったりするので、そこは市としても、もちろん委員がおっしゃったとおりに努力しなくてはいけないというのは、まさにそのとおりなのですけれども、そ

のあたりは参酌いただければと。

【委員】

これは、やはりネゴシエーターですね。交渉する力。これは絶対エキスパートがいりますよ。そういう人を育てて、地権者の方や利害関係の調整に当たれる人が市の行政の中にいないと、こういう計画は前に進められませんね。楽ではありませんよ。みんな利害関係は相反するわけですから、そこを熱意と努力と情熱で、大谷選手のような心境で頑張ってもらわないと。

以上です。

【会長】

さっきから言っています駅前再開発、いわゆる高層マンションということは考えられないのですか。

【事務局】

高層というレベル感の住宅の需要があるかどうかというところは、何とも言い難い部分があるかなと思っております。今の未来創造戦略室が産業振興課の企業誘致推進室だった頃に駅前のサンプリングをした中では、なかなか住宅需要は見込めないよねというところの民間のサンプリングがあったとは聞き及んでおりますので、実際、それがたしか公表されていたと思うので、なかなか実際、それこそ我々事務局、事務屋もそうですし、一般の市民の方もそうだと思うのですけれども、住宅に携わっているプロの方からすると、思ったほど白井市には需要はないですよと言われてしまうところがあるようです。

とはいえ、先ほどお話をさせていただいた法目上長殿もそうですし、その手前の、さらに前にお話が出ていたデータセンターの話もそうですけれども、ああいった一帯ができたときに、また駅前に必要とされる機能はどうなるのかというところは変わってくるかと思えます。

先ほどお話しさせていただいた駅前のビジョンを考えるとというときに、市のほうでは若い世代を増やしたい、そのために総合計画の方針を打っています。今回、推計をつくるきにも、そういった人たちを呼び込むためには、一定程度駅前にはそういった機能が必要だよねというところも、話としては検討して盛り込んでいます。そのあたりを都市計画課や未来創造戦略室とも連携しながら話し合っておりますので、そういった住宅機能というところは駅前には必要だろうということで、何かしらを創出できればと考えているのですけれども、それが高層マンションになるか、割と普通のマンションになるかというのは、ちょっとなというところです。

【会長】

都内から遅く帰ってくると、駅前のマンションはやはりいいと思います。私は少し奥まった池の上なのです。夜に駅から歩いて帰るか、自転車で帰るかですけれども、夜遅く帰ってくると、駅前のマンションがいいなと思います。雨の日には走っていけば、ほぼ濡れ

ない距離ですよ。だから、若者にとっては、学校も落ち着いていますし、白井は良い地域ではないかと思えます。

それから、私立に通うためのスクールバスが来ていますよね。幾つかの私立中高の。僕は、そういう意味で言いますと、都内に行かなくてもバスで送り迎えしているわけだから、私立に行く人はどうぞとかいうふうに言えるわけだし、高等学校は公立の高等学校があるわけですから。

外国なんかでよくやっているのは、地域住民が地域の学校をよくするのです。そこがよくなってくると地価が上がってくるのです。そういうことをやるべきではないかと。何かの会議のときに中学校の校長さんなんかにも僕は言ったのですが、学校をレベルアップして人が集まるような中学校・高等学校にしていくという、私はそういうことが重要なのではないかと思うのです。特徴のある公立にしていくとかいうことが重要なのではないかと思うのです。例えば公立で、有名大学に数多くの生徒が進学できるのだということになったらこの町へ人が来ますよ。地域住民も一緒になって学校のレベルアップしていくことが重要なのかなということ。個人的には、そういう感覚を持っていますね。

ほかに、どうぞご意見がありましたら。

【委員】

駅前マンションの話が出たと思うのですがけれども、建設費も高騰しているのは、はっきり申し上げられないのですが、多分、市況は変わっていて、市川とかだと今、8,000万とか9,000万とかで70平米ぐらいのマンションが売られているということを考えれば、ある程度値ごろ感のある駅前の白井に分譲すれば、必ずとは言えないのですが、売れるのと、あとは、もう一個が、小規模分譲、いわゆる10区画とかではなくて、駅から15分圏内ぐらいに大規模な魅力ある分譲地をつくれれば、必ずそれは売れると思います。もうニュータウンも土地がないし、駅前にマンションを建てる用地がないので、白井に建てれば、駅近であればマンションは売れると思いますし、きれいな分譲地をつくれれば必ず売れると思います。ですので、人が増えれば産婦人科もつくれますし、人が増えなければ、産婦人科をつくっても多分、誰もドクターは出てくれないという現状は変わらないと思うので、ぜひぜひ調整解除というよりは、駅近のなるべく駅から歩いて帰れる範囲内で、きれいな分譲地をつくってほしいなと思います。

以上です。

【会長】

印西牧の原でしたか。閑静な住宅地が幾つもできていますよね。だから、人が集まってきましたよね。ああいうことが重要なのではないかと。それから、もっと先に行きますと、成田線の木下のほうですかね。住宅地ができてきて、学校も新しくなって、地域が発展していますよね、見た感じで。昔は何もなかった地域ですよ。30年前は何もなかった地域に住宅地ができてきて、閑静な住宅地でいいじゃないかと思えます。学校も新しくなっ

ているし、住みよい地域になっていると思いますね。だから、そういうまちづくりがやはり必要なのだということですよね。

ほかに、よろしいですか。どうですか。いろいろ言われましたけれども、行政のほうとしてはどうでしょうか。

【事務局】

いろいろと貴重なご意見を頂きました。当然、私ども企画政策課だけでは処理し切れないものもたくさんありましたので、関係する課には情報共有しながら、いかにこの白井市をよくしていくかということは職員全てが思い描くものであると思いますので、そこを共有しながら、よりよい街になるようにいろいろなことを考えていきたいと思っています。

また、この会議でも、今回のように御助言いただくようなことがたくさんあると思いますので、その際、また改めてよろしくお願ひしたいと思っています。

また、頂いた意見を踏まえて、次回のように人口ビジョンという元の案を作成させていただいたときには、この委員会で頂いた参考資料のようなものもつけさせていただきながら、こういった形で白井市は取組を進めることで、こういう人口の推移になるような形で考えておりますというところは、お示しがちゃんとできればと考えております。

また、さらに人口ビジョンの場合、今までのものもそうだったのですが、人口推計で見込んだ推移から、さらに取組を進めることで、最終的に人口地価の数字の2.07、実際には人口ビジョン上は2.1になっていたかと思うのですけれども、なった場合みたいなところも出していますので、そのあたりも、こういった形で考えておりますというところはお示しできればなと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

【会長】

それでは、議題の1の人口ビジョン(案)における将来人口推計の方向性等については、一応お認めいただくということでもよろしいでしょうか、若干の修正等があるという話がありました、その点は私と事務局にお任せいただきたいと思います。

【委員】

これは刊行すると思いますので、数字とかが若干間違っている部分もありますので、そこら辺を修正してもらいたいと思いますので、よろしくお願ひします。

【事務局】

ビジョンの案ということで示させていただいたので、紛らわしくて大変申し訳なかったです。実際には、次回のように、人口ビジョン等は、さらに総合戦略のところの案とかも含めて見ていただいて、最終的には外に出ていくような形になるので、現状、この案は資料としては出るのですけれども、そのあたりは修正させていただいて出るような形にさせていただきます。よろしくお願ひします。

【会長】

それでは、議題の2ですけれども、その他について事務局からお願いいたします。

【事務局】

次回の会議日程についてお知らせさせていただきます。次回の会議なのですけれども、2月頃の開催を予定しております。近くになりましたら、日程調整を今回と同じような形で御依頼させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

事務局からは以上です。

【会長】

時間が非常に長くなりましたけれども、いろいろな御意見を頂きました。事務局のほうでは、この議論内容を参考にしてくださいということです。

それでは、これをもちまして、令和6年度第2回白井市まち・ひと・しごと創生審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。